

History of Kasai Marine Park

葛西海浜公園 の 歩み

もくじ

- 03-04 | 葛西海浜公園の概要
- 05-10 | 葛西沖の歩み
- 11-14 | 葛西海浜公園で見られる主な生き物
- 15-17 | ラムサール条約
- 18-19 | 葛西海浜公園のご案内
- 20 | 葛西海浜公園での主なできごと
- 21-22 | 海上公園の紹介



上空から見た葛西海浜公園

葛西海浜公園は、天然の浅瀬や干潟を含む海域と、その中に造られた2つの人工干潟（「西なぎさ」「東なぎさ」）からなる公園です。

「西なぎさ」の広い砂浜では、夏場は水遊びの家族連れなど多くの人で賑わいます。アサリなども生息しており、潮干狩りも楽しめます。葛西臨海公園とも渚橋でつながっており、葛西臨海水族園や、ダイヤと花の大観覧車も気軽に楽しむことができます。

「東なぎさ」は、人の立入が制限された、自然環境保全のためのエリアになっています。

この冊子では、葛西海浜公園の歩み、この公園で行われている様々な活動、干潟の特徴や生き物などについてご紹介します。

*History
of
Kasai
Marine Park*

参考文献

- 今よみがえる葛西沖(東京都)
- 葛西海浜公園HP
(公益財団法人東京都公園協会)
- 環境省HP

写真提供

- 江戸川区郷土資料室
- 公益財団法人東京都公園協会
- 公益財団法人東京都動物園協会



「西なぎさ」の賑わい

葛西海浜公園の概要

東京湾の 地形の 変遷

2億4700万年前、日本列島の大部分は海の底にあり、大陸から運ばれた土砂が海底に厚い堆積層を作っていました。その堆積層が中生代に起きた隆起により陸地となり日本列島が形作られます。

以後、列島は隆起や沈下を繰り返し、6000年前に海面の広がり最大であった東京湾は、徐々に海面を狭め現在に至ります。

東京湾には、多摩川、荒川など大小120もの川が流れ込んでいました。これらの川が上流から運ぶ土砂が10万年の年月をかけて堆積し、広大な干潟と浅瀬の海が形成されました。昭和30年代に大規模な埋立てがはじまる以前、東京湾には、日本でも最大級の干潟があったとされています。

現在の葛西海浜公園の周辺には、荒川や旧江戸川から運ばれた土砂が堆積してつくられた、「三枚洲」や「高洲」と呼ばれる遠浅の海が広がっています。



干潮時の「西なぎさ」